



（件名） 名寄市からドーリンスク市へ向けた「新型コロナウイルス感染症の克服に関する応援メッセージ」の贈呈について

（1）姉妹都市交流間における応援メッセージの交換について

道では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続いている状況にあることを踏まえ、ロシアと姉妹提携を結んでいる道内自治体と共同で、児童・園児などが作成した応援メッセージ等を相互に交換する事業を実施しています。

（2）ドーリンスク市から名寄市への応援メッセージ

12月にサハリン州のドーリンスク市から、同市と友好都市関係にある名寄市に、子どもたちが描いた応援メッセージ等、計63作品の贈呈がありました。応援メッセージは名寄市の市内施設や道主催の北海道国際交流フェアにおいても展示され、多くの方にご鑑賞いただきました。

（3）名寄市からドーリンスク市への応援メッセージ

名寄市では、ドーリンスク市から応援メッセージが届いたのを受け、2015年にドーリンスク市からの訪問団と交流があった風連児童クラブが返礼メッセージを作成しました。「コロナに負けず一緒に頑張ろう」などのメッセージが書き入れられたメッセージボードと折り鶴の飾りが作製され、当事務所が4月にドーリンスク市役所へお届けすることとなりました。

4月29日、当事務所の浦田所長らで、応援メッセージを届けにドーリンスク市役所を訪れました。ドーリンスク市役所からはトゥガレフ市長、ヒツェンコ第一副市长、ドヴォリャニノワ議長、アレクセエワ友好委員会代表に迎えていただき、トゥガレフ市長からは、「とても素敵なお返しをいただき感謝している」とお礼の言葉がありました。応援メッセージはドーリンスク市側のメッセージの送り主であるウリブカ幼稚園に送付され、その後、市内施設に展示される予定です。

（4）姉妹都市交流の絆

今回、ドーリンスク市は更なるプレゼントとして、市内の子どもたちが作製した絵画プレゼント等を用意しており、後日、サハリン事務所が名寄市へお届けすることとなりました。名寄市とドーリンスク市の姉妹都市交流は今年の3月25日をもって30周年を迎えています。今回のドーリンスク市からの、「応援メッセージ交換」に留まらないプレゼントこそが、長きに渡る姉妹都市交流で得た絆の強さを物語っていると感じています。

約60年前、日本で姉妹都市交流が始まった当初は国際交流の手段が少なく、姉妹都市交流は国際交流の機会として重要な役割を果たしていました。年々、各国の航路整備の発展により世界との距離が近づいていく最中での、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大、出入国制限により外国との行き来が困難である状況下において、私たちはかつて感じていた、「外国」との離れた距離感を改めて痛感しています。そんな中での、ドーリンスク市からのサプライズプレゼントは、ひと昔前に感じていた人的交流の尊さを思い出させてくれるような、また、両市における今後のより充実した姉妹都市交流の展開を期待させてもらえるような、貴重なプレゼントになるかもしれないと感じました。

メッセージボード、折り鶴



ドーリンスク市へ贈呈



左端：浦田所長 その隣：トゥガレフ市長

名寄市へ再び贈呈

